

(別紙)

様式第1号(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度 美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会（第3回）
開 催 日 時	令和6年10月8日（火） 14時00分 開会 14時50分 閉会
開 催 場 所	美幌町役場庁舎2階 第3会議室
出 席 者 氏 名	村田会長、伊藤副会長、信太委員、漆原委員、 鹿野委員、酒井委員、福田委員、岩堀委員
欠 席 者 氏 名	川添委員、岩本委員
事務局職員職氏名	那須総務部長、竹下政策推進課長 政策統計グループ 稲場主査、山口主事
議 題	1 アンケート調査結果報告書について 2 人口の将来展望について 3 第3期総合戦略の方向性について
会議の公開又は 非公開の別	公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)	—
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	0名
会 議 資 料 の 名 称	資料1 アンケート調査結果報告書 資料2 人口の将来展望について 資料3 新規方向性一覧
会議録の作成方針	☒ 録音データを使用した全部記録
	☐ 録音データを使用した要点記録
	☐ 要点記録

	なお、この度のアンケート及び意見交換会で収集した意見を参考に、各担当課へ第3期総合戦略に掲載する事業の検討を依頼しており、今後精査をした上で第4回の会議で事業をお示ししたいと考えております。 以上、アンケート調査結果報告書についてご説明させていただきました。よろしくお願いいたします。
村田会長	事務局から「アンケート調査結果報告書について」説明がありましたが、何か質問等ございませんか。 見たところ、若い人は美幌町に遊ぶ場所や賑わいが無いというところが1番のネックなのかなと思います。意外だったのは、治安が良いから住みやすいという意見が結構あったことです。 次に、議題の2番目、「人口の将来展望について」、事務局から説明をお願いします。
稲場主査（事務局）	【議題2 人口の将来展望について】 資料番号2をご覧ください。 こちらは、推計結果を比較した資料となっております。一番上の表をご覧ください。 第1期総合戦略策定時に社人研の推計を踏まえ町独自で人口推計を行った結果、2040年の人口が11,941人であることに對し、今年度、新たに人口推計を行った結果、2040年の人口は11,892人になるという結果となり、50人程度独自推計値が下がる結果となりました。 このことを踏まえ、将来人口目標については、2014年、2024年に実施した人口の独自推計値の差が50人ということから、元々の目標値である2040年の人口、14,500人に据え置いて人口減少対策に取り組みたいと考えております。 続いて、中段右側にあります、町独自推計と実績の比較についてですが、2015年、2020年ともに独自推計値よりは若干実績値が上回っている結果となりました。これは、戦略で実施している人口減少対策の効果を現れていると捉えることができます。しかしながら、人口目標までは届いていないという現状です。 続きまして、左下のグラフをご覧ください。 グラフで言う一番上の水色の線が、第1期に設定した人口目標となっておりますが、2015年に設定したものであるため、2020年までの実績値がもうすでに出ています。 今回は、その部分の目標値を実績値に置き換え、少し緩やかなカーブで目標値である14,500人へ向かっていくこととし、なだらかなカーブへ修正したいと考えております。 グラフで言うオレンジ色の線が今回修正するものとなりますが、第1期に策定したものよりも、なだらかなカーブになっていることが分かるかと思います。 なお、「将来人口目標値について、2040年の目標人口を14,500人に据え置くこと」、「目標値に向けたグラフをなだらかなカーブへ修正すること」については、役場の特別職・部局長などで構成される「美幌町まち・ひ

村田会長	と・しごと創生本部会議」にて承認いただいていることを申し添えます。 以上、人口の将来展望についてご説明させていただきました。よろしくお願いいたします。 推計値よりも実績値の方が若干上回っているとのこと。第1期戦略策定時からの将来人口目標である14,500人は変更しないということでしたが、ご意見・ご質問等ございませんか。 次に、議題の3番目、「第3期総合戦略の方向性について」、事務局から説明をお願いします。
稲場主査（事務局）	【議題3 第3期総合戦略の方向性について】 資料番号3をご覧ください。 こちらは、皆様からいただいた意見を踏まえ、第2回会議で整理しました方向性に入れ込むべき事項・キーワードやアンケート調査等の結果、役場の特別職・部局長などで構成されております美幌町まち・ひと・しごと創生本部会議において出た意見を反映させ、作成した基本的方向についての資料になります。 以前よりご説明させていただいているとおり、第1期の総合戦略から継続して掲げております、4つの基本目標は変えずに、今後5年間の方向性について戦略をうち、それを基に具体的な施策を並べるという作りになることとします。 前回会議で示した戦略の構成案のとおり、第3期では、第2期戦略までなかった現状と課題を整理し、それに対する基本的方向性を示して、その方向性に沿った施策を展開いたします。 お配りしております資料について、基本目標毎に現状と課題を整理し、（旧）とあるのが第2期の基本的方向、（新）とあるのが第3期戦略で示す方向性となっております。資料では、「現状と課題」及び「基本的方向」のつながりが分かりやすいように箇条書き形式としておりますが、最終的には文書形式とし、一般的に言われるような語句、例えば農林業の振興等については、今後盛り込んでいくこととなります。 それでは、基本目標毎の「現状と課題」、「基本的方向」についてご説明させていただきます。 基本目標1「地域の基幹産業を守り育て、強化するとともに新たな産業と雇用の場を作る」の現状と課題として ①町内事業者・企業が人材の確保に苦労している ②特産品や既存商品の魅力を伝えきれておらず、知名度が低い ③観光施設と繋がる公共交通機関 ④起業や企業誘致に繋がる本町の特性やニーズを適切には把握 ⑤外国人労働者の職場環境や生活環境の整備、地域住民とのコミュニティ形成 以上の5点を「現状と課題」として整理しました。 このことに対する基本的方向として、 ①地域の雇用と経済を担う町内事業者が行う人材確保活動に対して支援し、既存産業の強化や成長を促すことで、企業とともに歩む街づくりを目指すこと

	②既存商品のブラッシュアップを行い、町内外に向け特産品や商品についての魅力を効果的に発信することで、美幌町の地域経済の更なる活性化を目指すこと ③観光業においては、観光資源の見直しを行いながら既存の観光事業の発展や新たな観光事業を展開することで、体験型・滞在型観光を推進するとともに、観光施設とつなぐ公共交通機関の整備を検討していくこと ④現状の把握や美幌町に訪れる方の分析を行うなど、企業誘致や起業したい方の参考となる情報収集を行い、本町の特性をPRし、企業誘致や起業が増加することで、雇用の創出やまちなかのにぎわいを創り出すこと ⑤仕事を続けながら、安心して暮らせる環境整備や地域コミュニティの場を提供することで、地域の産業を支える人材である外国人労働者を受け入れる体制づくりを進めること 以上の5点を「現状と課題」に対する「基本的方向」として整理しました。 この基本的方向には、皆さまからの意見でいただきました「担い手や従業員の確保、安定した雇用の場、特産品などの魅力発信、公共交通機関を活用した観光業の強化、人の滞留、体験型・滞在型観光の充実、観光資源の見直し、企業誘致」などの意見を反映させております。 なお、基本的方向に基づく施策として ①産業における経営の強化・人材の確保 ②地域特産品の振興 ③地域資源を活かした観光の推進 ④起業支援・企業誘致 ⑤外国人労働者を受け入れる体制づくり の5点を想定しております。 資料を1枚おめくりください。続いて、基本目標2「「びほろ」らしさを活かして、ひとを呼び込み・呼び戻す」についてご説明させていただきます。 現状と課題として、 ①美幌町では、進学や就職を機に、特に10代後半から20代前半での転出が多くなっている ②町外に住み、美幌町へ通勤してくる方が、美幌町に住むことを検討できる環境づくり ③町民や町外者へ向けた魅力発信の手法について、従来の方法を見直し、目につきやすい情報発信のあり方を検討 ④美幌高校への道内外からの入学者数の増加を目指し、生徒が美幌町で快適に過ごせる環境づくり 以上の4点を「現状と課題」として整理しました。 このことに対する基本的方向として、 ①ひとを呼び込み・呼び戻すことを目的として、大学と地域間の交流を促進し学生に地域及び企業を知ってもらうことや、若者のニーズに沿った助成制度などの施策を検討することで、雇用創出及び若者の定着を図ること。また、移住定住者の金銭的負担の軽減を目的とした補助について検討を行い、本町に移住してくる方を増やし、社会増を目指すこと ②町外からの通勤者や、進学や就職を機に転出した若者が、結婚や出産を機に美幌町に戻ってくることを検討できるよう、情報発信を強化し、美幌町に住むという選択してもらえるような取組や環境づ
--	--

	くりを行うこと ③美幌町での暮らしやすさや魅力を SNS で効果的に発信し知名度向上を図り、美幌町に興味を持つ人を増やし、UIJ ターンなど将来的な移住に繋がる「関係人口」の創出・拡大を推進すること ④美幌高校の魅力を発信し道内外の生徒募集を推進し、人口減少の抑制を図ること 以上の 4 点を「現状と課題」に対する「基本的方向」として整理しました。 この基本的方向には、皆さまからの意見でいただきました「地域や企業を知ってもらうこと、若者のニーズ、人材確保、美幌高校の魅力発信」などの意見を反映させております。 なお、基本的方向に基づく施策として ①若者人口の増加 ②移住・定住促進による転入数増加 ③U ターン数増加を目指した取り組み ④SNS 等を活用した魅力発信 の 4 点を想定しております。 資料を 1 枚おめくりください。続いて、基本目標 3「このまちで出会い結婚し、子どもを産み育てたいという希望をかなえる」についてご説明をさせていただきます。 現状と課題として、 ①結婚は望んでいても、出会いの場が少ないことや、仕事と子育ての両立の負担感、経済的な不安などにより結婚や子育ての将来展望が描けていないなど様々な背景がある ②会社によっては、休暇など制度としてはあるものの、日数が少ない場合や、職場や上司からの理解がなく、休暇を取りにくい雰囲気 ③年齢の離れた子どもと一緒に遊ばせられる公園が少なく、学童に通っていない小学生の子どもが放課後に安心して過ごせる環境が少ない ④少子化が進み、各学校ではクラス数の確保が出来ていない 以上の 4 点を「現状と課題」として整理しました。 このことに対する「基本的方向」として、 ①結婚を望む男女の希望を叶えるため交流の機会を創出し、出会いから結婚までのサポートを行うこと。また、安心して子供を産み育てられるよう妊娠期から子育て期までの金銭面や精神面での負担や不安を軽減させるような切れ目のない支援を推進すること ②すべての働く方々が、働きながらも子育てしやすい環境作りを整備するため、企業や事業者、従業員へ各種休暇や制度の活用を促進させるための意識啓発を行い、希望通りに働き続けられる柔軟な働き方を推進し美幌町で子育てしやすい環境を整備すること ③子どもたちが元気いっぱいひのびと遊び過ごせる町となるよう、環境の整備を行うこと ④少子化に伴い各学校のクラス数が減少し、授業等によるグループの学び合いや切磋琢磨する機会が減るほか、学校行事では一定規模の集団形成の維持が難しくなっているため、施設一体型の学校による小中一貫教育を推進し、小中学校 9 年間を見通した切れ目のない教育の推進と質の高い持続可能な教育環境を確保すること 以上の 4 点を「現状と課題」に対する「基本的方向」として整理しました。 この基本的方向には、皆さまからの意見でいただきました「出会いや交流の場、安心して出産や子育てできる環境、安心した生活ができる職場づ
--	---

	くり、教育環境」などの意見を反映させております。 なお、基本的方向に基づく施策として ①結婚、出産、子育て支援（高校生まで） ②働きやすい職場環境の整備 ③子どもがのびのびと遊び過ごせる環境の整備 ④教育環境の充実 の4点を想定しております。 資料を1枚おめくりください。最後に、基本目標4「住み続けたいと思える生活環境を整える」についてご説明させていただきます。 現状と課題として ①住民同士のつながりが薄れるなど、地域活力が低下傾向にあるため、コミュニティの活性化 ②女性がいきいきと活躍できる社会の形成 ③行政が行っている取組を効果的に発信できておらず、取組や支援を理解している町民が少ない ④デジタル化を進める際に、デジタル技術導入に係る経費が高額な事や技術の指導を出来る人材が少ないことがネックとなる 以上の4点を「現状と課題」として整理しました。 このことに対する基本的方向として、 ①少子高齢化や人口減少、地域活力の低下に歯止めをかけることを目的として、まずは町民自らまちへ出て、町民同士のつながりを強め、楽しむことが重要であるため、やる気のある町民が出会い、互いのスキルを活かして活躍できる環境の整備を行い、地域の活力向上を促すこと。また、健康づくりを推進し、生きがいと喜びを感じ、健康に暮らし続けられる地域づくりを進めること ②自らの希望により、働き続ける又はこれから働こうとする全ての女性が活躍できる社会を形成していくために、女性の活躍推進に取り組む企業や従業員の好事例、いわゆるロールモデルを発信することなどによって、女性が輝く社会づくりを推進すること ③町民に向けた情報発信を強化し、行政が行っている取組や支援を広く周知すること ④安心して生活できる環境を整え、地域や未来を担う「人づくり」と経済活性化による「しごとづくり」と利便性を向上させる「デジタル技術」を好循環させる「まちづくり」を推進し、全ての住民にとって住みよい町となることを目指すこと 以上の4点を「現状と課題」に対する「基本的方向」として整理しました。 この基本的方向には、皆さまからの意見でいただきました「まちづくりに関わっている実感、意欲ある人材が活躍できる環境、職場環境や健康づくり」などの意見を反映させております。 なお、基本的方向に基づく施策として ①町民が活躍できる環境の整備・健康に暮らし続けられる地域づくり ②女性が輝く社会づくり ③デジタルを活用した便利なまちづくり ④住環境の整備 の4点を想定しております。 各基本目標における「現状と課題」、「基本的方向」、「予想される施策」に関する説明は以上となります。 なお、第3期総合戦略の方向性についても、役場の庁内会議である「本部会議」において承認いただいております。議題1で簡単に説明させていただきましたが、現在、各担当課へ依頼し、基本目標1から4で展開している
--	---

	施策に沿った事業を検討して頂いております。 皆様には後日、検討した事業の結果についてご確認いただきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願いいたします。 第3期総合戦略の方向性についての説明は以上となります。
村田会長	ただ今事務局より説明がありました。 現在基本的方向で並べているものは、新たな要素として出てきたもので、一般的な語句については今後整理していくという説明でした。まずは基本目標1について、ご意見・ご質問等ございませんか。 【基本目標1について】 観光のトレイルルートについては、釧路湿原から全部繋がったということではよろしいでしょうか。
信太委員	10/5にオープンしましたので、これからたくさんの方が歩くことになると思います。
村田会長	何人程度訪れるかという予想はたてているのですか。
信太委員	距離にもよりますが、ロングトレイルというのは1,000km、2,000km、3,000kmだったりするので、400kmというのは短い部類に入りますが、先進地である「みちのく潮風トレイル」という1,000kmある東北のトレイルが5年前にオープンしました。その前は「信越トレイル」というものがオープンしていますが、爆発的に人が来るということではない状況です。 コロナでインバウンドが躓きましたが、じわじわと波及していき、歩く人と地域の文化の交流が生まれるということと、じわじわと地域に宿泊や飲食が普及するということを目指しているので、目標は決めておりません。 ただ、国内のアクティビティではハイキングがトップに来ているので、登山や歩くのが好きな人は大勢訪れるだろうと推測しております。
村田会長	なかなかもう70代になると、長い距離は歩けないと思っております。
信太委員	12日に美幌町でオープンのイベントを行います、平均年齢は70～80代です。
村田会長	熊の心配はないのですか。
信太委員	ルートに入られる方は登山同様、原則的に自己責任となります。トレイルを管理している者が、熊鈴や熊スプレー、集団で入る、計画的に入る等を徹底して周知していこうと思います。熊のいるところに人間が入るわけですから、会ってしまった、事故になってしまったということは想定しておりますが、最終的には自己責任になります。地元の警察・消防・猟友会と連携しながら、事前の対策や注意喚起をしていこうと考えております。 美幌町にはちょっと楽しめる、例えば博物館や美幌峠があるので、トレイルをすることで、その滞在が半日～1日伸びるわけですから、周辺に宿泊の期待が生まれるというのは、美幌町にとって喜ばしいことです。皆で知恵を出し合い、どうやって美幌町に宿泊してもらうかをこれから考えるところです。 交流人口が増えるというのは二番手の話で、地域に人が住んでもらうと

村田会長	いうことが大事なことです。トレイルを歩いてみて、ここは素晴らしいところだなと思って住んでもらいたい。現に弟子屈町で、和琴半島で SUP をやった方々がそこに住むということが起きております。 美幌峠のハイキングを通じて、ここでガイドをやってみたい等、人口の増加に少しでも繋がれば、観光業としての違う力も生まれるのではないかと思います。 続いて基本目標 2 について、ご意見・ご質問等ございませんか。 【基本目標 2 について】 学生に、地域及び企業を知ってもらおうとありますが、学生だけでなく町民も地域の企業がどういうことをやっているのかというのは知らないと思います。工場は沢山あり、日甜さんは毎年見学会をやっているの、参加している人もいると思いますが、他の企業はどういうことをやっているのか知らないこともあると思うので、企業側も町民に対してオープンにしてもらえることがあればいいのかなと思っています。 続いて基本目標 3 について、ご意見・ご質問等ございませんか。 【基本目標 3 について】 小中一貫教育は全国的な流れなのでしょうか。
那須部長（事務局）	美幌町は令和 1 3 年度をひとつの目標として進めるということを新年度予算の執行方針で出しました。なかなか出足は遅い感じではありますが、目標に向かって、場所の問題等、これから議論しなければならないことは沢山あると思います。最終的には、子供たちのために小中一貫校を開校することを目的に進めたいと思っています。
村田会長	民生委員の関係で、学校の門の前に立って見回りをしますが、自転車で来る子供と親が車で送ってくる子供がひとつにまると、すごい数になるのかなと思いますので、学校の場所を狭いところに建てると、交通面だけでも大変だなと思います。
伊藤副会長	基本的方向（新）「②企業や事業者、従業員へ各種休暇や制度の活用を促進させるための意識啓発を行い」とありますが、意識啓発というのは事業者や従業員に対してということでしょうか。
竹下課長（事務局）	はい、そうですね。
伊藤副会長	言わんとしていることはわかりますが、どういう制度があるかという、特に事業者側は、あまり良い制度がない。できれば、環境に慣れるために美幌町独自の助成制度を創設するみたいなニュアンスを持ちながらこのような文言があると嬉しいです。 学童保育、保育園でもそうですが、お母さんが働いていてなかなか 6 時には迎えに行けない、延長時間にも遅れるというケースがあったりするため、保育士を増やすということを美幌町は話し合っているかと思いますが、事業所に支援を出し、お子様を育てている従業員に対しては早期に退勤する分、補助を出します等があると、事業所としては対応しやすいと感じます。 また、施策 2 の言葉尻ですが、「働きやすい職場環境の整備」は悪い意味ではないと思っていますが、JA さんや森林組合さん、網走信用金庫さん等、大きな企業なら働きやすい環境づくりはできると思いますし、十二分に動いていると思います。しかし、美幌町の事業者さんの大半はそうし

	たくてもできないという現実もあります。もちろんそういった意味で、この言葉を記載しているわけではないと思いますが、「働きやすい環境にしましょう」と啓蒙されてしまうと、やりたくてもできない事業所がブラック企業に見えてしまうようなネガティブな話にならないように注意した形の施策の文言にさせていただけると、商工会議所としては、経済を担う側としてはありがたいと思いますので、言葉尻の話ですが検討いただければと思います。
竹下課長（事務局）	町内企業の皆様がどのような休暇制度をもっているかということは、町として把握しきれている訳ではありません。そういう制度がしっかりされているところは、そのまま促進できるでしょうし、制度が無かったり取りづらい環境であれば、かえって評判を下げてしまうようなことになればそれは本末転倒なので、そこは表現に気をつけていきたいと思います。 また、実態把握についても何らかの方法でできるように、助成制度が良いのか、どういうサポートが良いかは別としても、何か町としてできることはどのようなことなのか、まずは状況を確認してからになるのかなと思います。
村田会長	子育て世帯へのアンケートで、職場の福利厚生に満足しているかという項目で、約８７％が満足しているという結果は、随分と高いなと思いました。理由も、産休含めて休暇が取りやすいというのがあるので、たまたまアンケートを取ったところがそうだったのかもしれませんが、意外と多いなという印象です。
竹下課長（事務局）	こちらは大谷幼稚園さんのアンケート結果となっております。大谷幼稚園さんはデジタルアンケートでご協力いただきました。
福田委員	驚きました。回答率を見ると、９０名中２３件で２６．６％ということで、「回答者の職業は、専業主婦が３０．４％と最も多く」ということがあるため、現実の％とは少し違い、幼稚園全体でも専業主婦の方はこんなに多くないと思います。 ただ、大谷幼稚園の子育て世帯に関わらず、リアルな意見が沢山届いていて、すごく貴重なアンケートだと思いました。
村田会長	教育の部分で見た時に面白いと思ったことは、美幌高校のアンケートでＰ１６～１７にある、「将来やりたいしごと」がこんなに沢山の種類が出てくることに驚きました。公務員に偏るだとかはあまりないのですね。
福田委員	想像以上に夢がある。若者に夢が無いと、どこかで決めつけてしまっていたのかなと思わせられます。１０代が考えていることはキラキラしていてまぶしいと思いました。
村田会長	今はYoutuberなどが流行りなのでしょうけども。
竹下課長（事務局）	ここに記載されているものは、もう少しまとまられるところもあるのですが、あえて書かれたものを全部並べてみました。
村田会長	この間、「芸能人」が男の子のベスト１０から外れたと聞きました。やはり皆さん色々と考えているなど、逆に安心した感じがします。 続いて基本目標４について、ご意見・ご質問等ございませんか。

村田会長	【基本目標４について】 基本的方向（新）の①の２行目、「やる気のある町民」という表現が気になりました。
竹下課長（事務局）	元々ご意見の中で、「活躍したい・活動したいけれど、何が自分にできるかわからない」というものがあり、そういう方がひとりではなく、集まって何かできるようなことや、そのような場を提供するというイメージでしたが、表現は改めないといけませんね。
稲場主査（事務局）	「意欲のある」とかですかね。
鹿野委員	意欲を持ってもらうような目標にしないとならないのではないかなと思います。 基本的方向（新）②「自らの希望により」という言葉は必要なのか疑問なのですが、あえて入れた理由は何でしょうか。
竹下課長（事務局）	おっしゃるとおり、「自らの希望により」は無くても読めると思いますが、入れた意味としては、働きたいが、女性が希望の就職先を見つけにくいというイメージでした。ただ、この言葉はネガティブなので、無くても良いかなと思います。
村田会長	デジタル技術について、タブレットは小学生は１人１個当たっていると思いますが、中学生も１人１個あたっているのでしょうか。
竹下課長（事務局）	中学生もクロムブック等が当たっております。
村田会長	ある自治体に聞くと、自治会でタブレットを持っていて、広報をタブレットを使用して回していると聞いて、もう少しでそういう時代になるのですね。
竹下課長（事務局）	D Xと言って、デジタルの計画が来年見直しの年であり、第２期の計画を策定するのですが、その計画では町民の皆さまへ直接影響するような、還元が出来るような、デジタルの方向性を出していこうと思っております。 電子回覧板だけではなく、例えば安否確認のようなものが、LINE みたいな形で、班長が「皆さん元気ですか」と打つと「はい元気です」と反応したり、既読になったから皆大丈夫。のような、今まで見回りをしていたことが、デジタル媒体で安否を確認する、みたいなことは様々な派生効果がでてくるので、次期デジタルの計画でしっかりと取り組んで行きたいと思っておりますし、まちひとしごとの方では、予告編みたいなものは出していききたいと思います。
村田会長	最後に、事務局より事務連絡があります。
稲場主査（事務局）	次回の会議開催は１１月中旬頃を予定しています。 日程調整については、１０月下旬頃、文書を郵送いたしますので、ご回答いただければと思います。 会議（第４回）の内容については、この度の会議でお示しした資料３をさらに整理し、各担当課で検討した施策に沿った事業なども反映させ、第３期総合戦略の事務局（案）を作成し、皆様からご意見を頂きたいと考えております。

村田会長	よろしくお願いいたします。 以上で本日予定されている会議の内容について全て終了しました。 皆さまお疲れ様でした。 【閉会】
-------------	---